

WiFi設置 オンライン授業も

平成29年度から「ふるさと納税」を基に、普通教室、特別教室、体育館などすべての部屋にWifiの設置が進められました。Wifiは、スマホ、パソコン、電子機器等をインターネットに無線で接続するシステムです。お蔭さまで、今年はコロナ禍で休校などの事態から、オンラインでの連絡、リモート授業が行われるようになりました。まさに「県陵ICT」を県下に先駆けて行うことができました。県によって設置された「電子黒板」との併用により、従来の教室風景が一変いたしました。教える先生方も、テキストを作り、送信などが即時に行えます。生徒も課題に対する解答を返信でき、学校では電子黒板に表示した課題で授業が出来るというものです。

ふるさと納税

平成29年度	26件	30万円
平成30年度	41件	192.5万円
令和元年度	35件	175.5万円
令和2年度	22件	150.5万円

学習会館「陵友館」の利用を

平成14年創立80周年記念事業で建設された「陵友館」は、1階に24席、2階に28席を要し、冷暖房完備で、多い時には1日平均20人位ありましたが、昨年度から年中無休（年末年始は除く）で開館するようになりました。受験校向けの赤本も揃え、コピーも学校負担と恵まれており、大勢の利用が望まれております。

ここ5年間の利用状況を見ますと、

	利用 延人数	開館日	1日平均
令和2年度	1,862	276	6.7
令和元年度	4,466	299	14.9
平成30年度	2,718	277	9.8
平成29年度	4,209	285	14.7
平成28年度	3,272	292	11.2

昨年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、5月一杯休校となり閉館。6月以降はソーシャルディスタンス確保のため、座席数を半数にして開館したため、利用者数は減少した。新年度は、新たにWifiを設置し、一層の利用を望みます。陵友館は、運営は学校で、建物の維持管理は同窓会が負担しております。

ふるさと通信



松本市が

中核市に移行しました

高34回 前澤 弘一



今年から広報編集委員として、ふるさと通信を担当することになりました。

ふるさと松本の話題や街の変化を会員の皆さまに伝えていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

さて、松本市は4月1日、愛知県一宮市と共に全国で61番目の中核市となりました。中核市は全国で20ある政令指定都市に次ぐ都市区分に位置付けられるもので、長野県内では長野市に次いで2都市目となります。

松本市では、平成27年に中核市の指定要件が「人口30万人」から「人口20万人」に緩和されたのを契機に、平成28年から検討を開始し、移行に向けて準備を進めてきました。昨年7月に松本市長が総務大臣に中核市の申し出を行い、10月に中核市とする

政令が閣議決定され正式に移行が決まったものです。

それでは、中核市になると松本市民の生活にどのような影響があるのでしょうか。

まず、今まで長野県が担っていた事務権限が松本市に移ります。福祉や保健衛生といった保健所の業務のほか、環境や都市計画などさまざまな分野で約2500の事務権限が委譲されます。すなわち、今まで県が判断してきたことを、松本市が判断できるようになった権限が増えたこととなります。

このことは、松本市の行政機能の強化と共に、市民サービスの向上につながることを期待されるものです。特に、新たに設置された保健所は「健康寿命延伸都市の創造」をキャッチフレーズとして掲げ、従来、松本市が

行っている子育て支援や健康づくりなどの業務と県から移譲された感染症予防や食品衛生の監視、指導などの業務の窓口が一元化され市民の健康を支える総合拠点となります。

世界中で一日も早い収束を願う新型コロナウイルス感染症への対応も今度は松本市保健所の役割です。

市民にとって、身近な市職員が保健所業務に携わることで、相談しやすく利用しやすい施設になってほしいと思うと共に、今後、少子高齢化が進む中で中核市移行が松本市にとって大きなチャンスになることを期待するものです。



白虹会 2年 梨本 紗菜